

生活福祉論

概要

現代社会における福祉問題(生活上の困難や障害)を概観し、それら福祉問題を解決・緩和するための制度やサービスについて取り上げる。また、援助者や援助方法、援助観等についても触れる。各回の内容に沿って、教科書を中心に講義を進めていくが、理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討も行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解することができる。
 社会福祉と児童福祉および児童の人権や家庭支援との関連性について理解することができる。
 社会福祉の制度や実施体系について理解することができる。
 社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。
 社会福祉の動向と課題について理解することができる。

各回の内容

1. 保育と社会福祉
2. 社会福祉の考え方と役割
3. 社会福祉の歴史
4. 社会保障制度
5. 社会福祉の制度・法体系
6. 社会福祉の実施機関・行財政
7. 社会福祉の施設
8. 子どもの人権と児童家庭福祉
9. 社会福祉の専門職と倫理
10. 相談援助の意味と方法
11. 福祉サービスの利用支援・第三者評価
12. 権利擁護と苦情解決
13. 地域福祉
14. 関連分野との連携・ネットワークおよび諸外国の動向
15. まとめ
16. 試験

準備学習

各回の内容について予習する(教科書および関連図書を読む)こと。

評価方法

試験70%
 毎回の振り返り30%

教科書

橋本好市・宮田徹 編 『保育と社会福祉』(株)みらい、2012年

参考文献

その都度、紹介する。

相談援助

概要

相談援助の方法と技術について理解し、具体的展開について理解を深める。また、保育とソーシャルワークの関係について理解し、さらに保育におけるソーシャルワークの応用について理解を深める。理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討を行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

相談援助の概要について理解することができる。
 相談援助の方法と技術について理解することができる。
 相談援助の具体的展開について理解することができる。
 保育におけるソーシャルワークの応用について理解を深めることができる。
 事例検討をととして相談援助の対象についての理解を深めることができる。

各回の内容

1. 相談援助の概要
2. 相談援助の対象
3. 相談援助の過程
4. 相談援助の技術とアプローチ
5. 相談援助の計画・記録・評価
6. 相談援助の協働・連携および社会資源の活用、調整、開発
7. 事例検討
8. まとめ
9. 試験

準備学習

各回の内容について予習する(教科書や関連図書等を読む)こと。

評価方法

試験70%
 毎回の振り返り30%

教科書

相澤譲治・井村圭壯編著『社会福祉の相談援助』久美出版、2012年

参考文献

その都度、紹介する。

保育相談支援

概要

保育相談支援の意義について理解し、また、その内容や方法を理解する。また、保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解を深める。
理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討を行う。

担当教員	奥田美由紀・坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

保育相談支援の意義について理解することができる。
保護者支援の基本を理解することができる。
保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解することができる。
保育所等の児童福祉施設における保護者支援の実際について理解することができる。

各回の内容

1. 保育相談支援の意義
2. 保育相談支援の基本
3. 保育相談支援の基本
4. 保育相談支援の実際
5. 保育相談支援の実際
6. 保育所における保育相談支援の実際
7. 保育所における特別な対応を要する家庭への支援
8. まとめ

準備学習

親と子の広場や実習における事例について、保育相談支援の視点で考えてみる

評価方法

各回の振り返り50%
レポート50%

教科書

必要に応じて資料を配付する。

参考文献

なし

幼児理解の理論と方法

概要

保育を行うためには子どもへの理解が不可欠である。本授業では、子ども理解の基礎となる理論、視察と記録の取り方などを学ぶ。また、小学校との連携や、特別に支援を要する子どもへの理解、現代の子どもをめぐる問題を把握し、保育者として多面的に援助するにはどうすべきかを検討する。

担当教員	長谷川美香
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	子ども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

保育の基盤となる理論を理解する。記録の書き方、記録から援助の方法を考える力を身に付ける。さらに、現代の子どもの現状、課題を把握し、保育者として援助すべきことを考える。

各回の内容

1. 自分が子どもの頃を振り返る・子ども理解の重要性
2. 子ども理解の基礎理論
3. 子ども理解の基礎理論
4. 保育における子ども理解の基本
5. 保育における子ども理解の基本
6. 保育における子ども理解の基本
7. 子ども理解のための計画
8. 子ども理解のための記録
9. 子ども理解のための記録
10. 保護者への理解と援助
11. 特別に支援を要する子どもへの理解と援助
12. 特別に支援を要する子どもへの理解と援助
13. 現代の子どもをめぐる環境と課題
14. 現代の子どもをめぐる環境と課題
15. 小学校との連携

準備学習

「親と子の広場」への参加など、実習以外で、子どもや保護者と関わる機会を出来るだけもつこと。子育て支援センターや屋内遊戯施設などの見学も勧める。

評価方法

授業態度・取り組み（グループワークや発表など）30%
 授業の際の小レポート30%
 最終レポート40%

教科書

高嶋景子・砂上史子・森上史朗編『子ども理解と援助（最新保育講座）』ミアネルヴァ書房 2011年

参考文献

その都度、授業で紹介する。

こどもの保健

概要

子どもの健康について疾病の理解ができ、対応について理解する。
また、子どもを取り巻く環境の整備や災害時への備えも考慮した安全面について理解する。精神保健分野では子どもの置かれている現状を理解し適切な支援への学びを深める。

担当教員	山下敦子・市川陽子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

子どもの精神保健とその課題等について理解する
保育における環境及び衛生管理や安全管理について理解する。
施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。
子供の疾病と適切な対応

各回の内容

1. 子どもの疾病と適切な対応
2. 子どもの疾病と適切な対応
3. 保育現場における環境整備と衛生管理
4. 保育現場における事故防止と安全対策
5. 保育現場における災害への備えと危機管理
6. 子どもの健康及び安全の実施体制
7. 職員間の連携と組織的取り組み
8. 母子保健対策と保育
9. 家庭・専門機関との連携
10. 地域との連携
11. 子どもの精神保健
12. 子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの心の健康とその課題
14. 全体のまとめ
15. 全体のまとめ

準備学習

講義時に次回授業の予告をしますので教科書等を読み予習を行うこと

評価方法

山下担当部分100%（課題レポート・提出物20%、小テスト80%）

教科書

遠藤郁夫 他 編集『子どもの保健 子どもの健康と安全を守るために』学建書院
兼松百合子 他編著『子どもの保健・実習—すこやかな育ちをサポートするために』同文書院

参考文献

その都度、授業で紹介する

こどもの保健(演習)

概要

子どもの健康および安全にかかわる保健計画について学ぶ。子どもの疾病への対応を具体的に演習し学ぶ。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

子どもの健康および安全に係わる保健活動の保健活動の計画及び評価について学ぶ。
 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
 救急時の対応や事故の防止、安全管理について具体的に学ぶ。
 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

各回の内容

1. 救急蘇生法の習得
2. 救急蘇生法の習得
3. 乳幼児の救急法
4. けがの手当て、応急処置
5. 感染の予防方法（排泄物の処理、手洗い）
6. 保健活動の計画及び評価
7. 事故防止及び災害時の安全管理
8. 集団保育における健康教育

準備学習

毎回実習内容の予告を行うので教科書等で予習を行う。
 補講の関係で講義内容の順番に変更がある可能性があるため、随時連絡するので確認をすること。

評価方法

授業内容の復習を兼ねての小テストを数回実施その成績にて評価する 100%

教科書

遠藤郁夫 他 編集『子どもの保健』学建書院
 兼松百合子 他編著『子どもの保健・実習―すこやかな育ちをサポートするために第2版』同文書院

参考文献

その都度、授業で紹介する

こどもの保健(演習)

概要

乳幼児の具体的な生活支援の方法を学ぶ。子どもの健康的な育ちと自立を促す支援の方法を学ぶ。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

子どもの保健、で学んだことを演習することを目的とする。乳幼児の具体的な生活支援の方法を学び、子どもの健康的な育ちと自立を促す。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。

各回の内容

1. 生活環境整備
2. 栄養と食事・授乳
3. 離乳食から幼児食
4. 睡眠・休息
5. 運動・遊び
6. 排泄
7. 身体の清潔
8. 衣生活

準備学習

毎回実習内容の予告を行うので教科書等で予習を行う。

評価方法

授業ごとに振り返りの小テストを行う 100%

教科書

遠藤郁夫 他編集『子どもの保健』学建書院

兼松百合子 他編著『子どもの保健・実習—すこやかな育ちをサポートするために』同文書院

参考文献

その都度授業で紹介する

社会的養護

概要

社会的養護の対象や制度・実施体制について概観し、さらに、社会的養護の現代社会におけるその意義について理解を深める。各回の内容に沿って、教科書を中心に講義を進めていくが、理解を深めるために視聴覚教材を用いたり、事例検討も行う。

担当教員	坂本真一
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができる。
 社会的養護と児童福祉の関連性および児童の権利擁護について理解することができる。
 社会的養護の制度や実施体系について理解することができる。
 社会的養護の現状と課題について理解することができる。

各回の内容

1. 社会的養護の歴史および社会的養護の理念と概念
2. 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
3. 児童の権利擁護と社会的養護
4. 社会的養護の制度と法体系
5. 社会的養護の仕組みと実施体系
6. 家庭養護と施設養護
7. 社会的養護の専門職
8. 施設養護の基本原則
9. 施設養護の実際
10. 施設養護とソーシャルワーク
11. 施設等の運営管理
12. 専門職の倫理の確立
13. 被措置児童等虐待の防止
14. 社会的養護と地域福祉
15. まとめ
16. 試験

準備学習

各回の内容について予習する(教科書や関連図書等を読む)こと。

評価方法

試験70%
 毎回の振り返り30%

教科書

相澤譲治・井村圭壯 編著「保育と社会的養護」学文社(2014年)

参考文献

その都度、紹介する。

社会的養護内容

概要

社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解する。また個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について理解する。さらに社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶことができる。

施設養護等の実際について学ぶことができる。

個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶことができる。

社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解することができる。

家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。

各回の内容

1. 社会的養護の実施体系および児童の権利擁護と保育士の倫理・責務
2. 日常生活支援(事例分析)
3. 治療的支援(事例分析)
4. 自立支援(事例分析)
5. 個別支援計画の作成
6. 記録および自己評価
7. 社会的養護にかかわる専門的技術
8. まとめ
9. 試験

準備学習

各回の内容について予習する(関連図書等を読む)こと。

評価方法

試験70%

毎回の振り返り30%

教科書

使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

参考文献

その都度、紹介する。

保育実習指導

概要

保育実習 に臨むにあたり、実習の目的や内容、方法などを学び理解を深める。また実習後は、実習で体験し学んだことの整理・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする

担当教員	堺・奥田・長谷川
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

(事前) 保育実習 の目的や内容、方法などを理解することができる。

(事後) 実習で体験し学んだことの整理・自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

各回の内容

1. 子どもの最善の利益を考慮した保育
2. 保育の計画と実践
3. 保育の計画と実践
4. 保育の計画と実践
5. 実習に際しての留意事項
6. 実習の体験の発表と共有化
7. 実習の体験の発表と共有化
8. 実習の総括・自己評価と自己課題の明確化

準備学習

配布資料を熟読し、観察の視点や実習日誌の書き方について理解する。
実習後は、体験を通しての学びや今後の課題・目標を明らかにする。

評価方法

課題およびレポート 80%
提出物 20%

教科書

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』

参考文献

なし

保育実習指導

概要

保育実習の目的や内容、方法などを理解する。また実習後は、実習で体験し学んだことを整理し、自己評価を行い、さらに、保育に対する課題や認識を明確にする。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。

保育実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、実践力を培うことができる。

保育士の専門性と職業倫理について理解することができる。

実習の事後指導をとおして実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。

各回の内容

1. 事前指導	児童福祉施設等についての基本的理解	子どもの最善の利益を考慮したかかわり・子どもの状態に応じた適切なかかわり
2. 事前指導	保育の表現技術を生かした実践	
3. 事前指導	支援計画と実践・観察	
4. 事前指導	記録、自己評価に基づく支援の改善	
5. 事前指導	保育士の専門性と職業倫理・実習に際しての留意事項	
6. 事後指導	実習の振り返り	
7. 事後指導	実習体験の発表と共有化	
8. 事後指導	実習の総括・自己評価と自己課題の明確化	

準備学習

配付資料を熟読し、観察の視点や実習日誌の書き方について理解する。

実習後は、体験を通しての学びや今後の課題・目標を明らかにする。

評価方法

毎回の振り返り30%

レポート50%

提出物20%

教科書

使用しない。

必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編『保育実習の手引き』

福島県保育者養成校連絡会編『福島県保育実習施設』

保育実習（施設）

概要

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。
 なお、実習期間中に担当教員が実習施設を訪問し、実習状況の視察および指導・助言にあたる。

担当教員	坂本真一・狩野奈緒子・堺秋彦・奥田
授業形態	美曾紀・山下敦子・長谷川美香
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

目標

児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解することができる。
 観察や子ども等々のかかわりをとおして子ども等への理解を深める。
 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に学ぶことができる。
 支援計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解することができる。
 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶことができる。

各回の内容

1.	10日間の実習をとおして以下の内容について実習を行う。なお、詳細については実習施設によって異なる。
2.	〔施設の役割と機能〕 施設の生活と一日の流れを理解し、その役割と機能についても理解する。
3.	〔子ども(利用者)理解〕 子ども(利用者)の観察とその記録を通して子ども(利用者)への理解を深める。
4.	〔子ども(利用者)理解〕 個々の状態に応じた援助やかかわりを通して子ども(利用者)への理解を深める。
5.	〔養護内容・生活環境〕 保育士等の職員からの指導を通して、計画に基づく活動や援助について理解する。
6.	〔養護内容・生活環境〕 子ども(利用者)の心身の状態に応じた対応について理解する。
7.	〔養護内容・生活環境〕 子ども(利用者)の活動と生活の環境とのかかわりや健康管理、安全対策について理解する。
8.	〔計画と記録〕 保育士等の職員からの指導を通して、支援計画およびその活用について理解する。
9.	〔計画と記録〕 記録に基づく省察・自己評価について理解する。
10.	〔専門職としての保育士の役割と倫理〕保育士等の職員からの指導を通して、保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携について
11.	具体的に学ぶ。
12.	〔専門職としての保育士の役割と倫理〕 保育士等の職員からの指導を通して、保育士の役割と職業倫理について具体的に学ぶ。

準備学習

保育実習指導 の内容を整理する。
 実習施設における事前オリエンテーションの内容を整理する。

評価方法

実習先の評価70%
 実習日誌の記録内容30%

教科書

使用しない。
 必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編 『保育実習の手引き』
 福島県保育者養成校連絡会編 『福島県保育実習施設』

保育実習

概要

保育実習での学びを基礎として、保育所における実習(実践)を通して、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、さらに保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。

担当教員	坂本・狩野・堺・奥田・山下・長谷川
授業形態	実習
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

目標

保育所における実践を通して、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。また、家庭と地域の生活実態に触れ、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。

各回の内容

-
1. 10日間、保育所での保育活動に従事しながら実習を行う
-

準備学習

配布資料を熟読し、観察の視点や実習日誌の書き方について理解する。実習後は、体験を通しての学びや今後の課題・目標を明らかにする。

評価方法

実習先の評価70%
実習日誌の記録内容30%

教科書

なし

参考文献

なし

保育実習

概要

保育所以外の児童福祉施設等において10日間の実習を行う。
 なお、実習期間中に担当教員が実習施設を訪問し、実習状況の視察および指導・助言にあたる。

担当教員	坂本・狩野・堺・奥田・山下・長谷川
授業形態	実習
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	10日間
単位数	2

目標

児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解を深めることができる。
 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことができる。
 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
 保育士としての自己の課題を明確化することができる。

各回の内容

- 10日間の実習をとおして以下の内容について実習を行う。なお、詳細については実習施設によって異なる。
- 【児童福祉施設等(保育所を除く)の役割と機能】 実践を通して施設の役割や機能について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「受容し、共感する態度」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども(利用者)理解」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「個別支援計画の作成と実践」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「子ども(利用者)の家族への支援と対応」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「多様な専門職との連携」について理解を深める。
- 【施設における支援の実際】 実践や保育士等の職員からの指導を通して「地域社会との連携」について理解を深める。
- 【保育士の多様な業務と職業倫理】 実践や保育士等の職員からの指導を通して、保育士の業務内容や職業倫理について
- 具体的な実践に結びつけて理解する。
- 【保育士としての自己課題の明確化】 保育士としての自己の課題を明確化する。

準備学習

保育実習指導 の内容を整理する。
 実習施設における事前オリエンテーションの内容を整理する。

評価方法

実習先の評価70%
 実習日誌の記録内容30%

教科書

使用しない。
 必要に応じて資料を配付する。

参考文献

福島県保育者養成校連絡会編 『保育実習の手引き』
 福島県保育者養成校連絡会編 『福島県保育実習施設』

保育・教職実践演習(幼稚園)

概要

教材の製作や模擬保育の練習、発表、現代の子どもの生活実態について調べるなど、保育現場で活かすことの出来る知識・技術を学ぶ。さらに、グループワークを通し、保育現場同様、仲間とともに保育をつくりあげる体験をする。「親と子の広場」への参加、幼稚園をはじめ子どもが集まる場への見学を通し、様々な視点から子どもをみる力を養う。

担当教員	堺秋彦・長谷川美香
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

グループワークを通し、他の学生のアイデアから、新しい学びを得るとともに、仲間と保育をつくりあげる喜びを感じる。また、実習以外でも、意識的に子どもと触れ合おうとする意欲をもつ。保育現場で役に立つ実践力を身に付ける。

各回の内容

1. 保育者とは(役割・心構え・職務内容など)
2. 保育教材の意義・グループワーク(教材研究)
3. グループワーク(教材研究)
4. グループワーク(教材研究)
5. グループワーク(教材研究の発表)
6. 模擬保育の意義・グループワーク(模擬保育)
7. グループワーク(模擬保育)
8. グループワーク(模擬保育)
9. グループワーク(模擬保育の発表)
10. 今日の子どもの状況・グループワーク(子どもの生活についての研究)
11. グループワーク(子どもの生活についての研究)
12. グループワーク(子どもの生活についての研究)
13. グループワーク(子どもの生活についての発表)
14. 子どもが集まる場への参加・見学からのエピソードから
15. 子どもが集まる場への参加・見学からのエピソードから

準備学習

資料などを通し、教材研究や子どもへの理解を深めておく。「親と子の広場」への参加、幼稚園の行事や屋内遊戯施設の見学など、子どもと接する機会を意識的にもつ。

評価方法

授業態度・取り組み(グループワークや発表など)40%
授業の際の小レポート30%
最終レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する。

児童と共に

概要

児童期の子どもの成長発達を理解し、児童に対してどのようなかわりをもつことが必要かということについて体系的に理解できる。その中でも特に思春期の課題について掘り下げて考える。

担当教員	西内みなみ・山下敦子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

児童期の子どもの成長発達を理解し、児童に対してどのようなかわりをもつことが必要かということについて体系的に理解できる。その中でも特に思春期の課題について掘り下げて考えることができる。

各回の内容

1. 児童期の発達の考え方
2. 幼児から児童へ
3. ことばの発達と教育
4. 友人関係の広がり
5. 思春期とは
6. 思春期の課題
7. 道徳性と価値観の発達
8. 思春期の子どもを持つ保護者
9. 自己の成長と人間関係
10. メディアとの関わり
11. 児童虐待の課題
12. 不適応行動の諸相
13. 子どもの問題行動
14. 児童と共に
15. まとめ

準備学習

教科書や関連図書を熟読し、授業で取り上げられるテーマについての予習と復習を行う。

評価方法

課題レポート50%、毎回の振り返りシート50%

教科書

長谷部比呂美他『保育の心理を学ぶ』ななみ書房

参考文献

その都度紹介する

こどもの食と栄養

概要

保育者として、子どもの健康と食生活の現状と栄養の基本について理解し、保育所・幼稚園・家庭における食事と栄養について問題を発見し、適切に対応できるよう学ぶ。保育園・幼稚園・家庭・地域において、子どもの発達や状況に応じて食の支援をできるよう、教材の特徴や活用方法、食育の企画・実施・評価についても学ぶ。

担当教員	木下 ゆり
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

子どもの健康と食生活の現状、栄養に関する基本知識について理解する。食育の事例、教材の特徴を知り、活用できるようになる。食物アレルギーなどの子どもについて理解し対応できるようになる。食育プログラムの計画・実施・評価ができるようになる。子どもの調理体験の意義と方法について理解し実践できるようになる。

各回の内容

1. こどもの健康と食生活 日本と世界の子どもを取り巻く食環境
2. 食育の基本と内容
3. 栄養の基本(1) 栄養とは
4. 栄養の基本(2) 各栄養素の働きと食品
5. 栄養の基本(3) 食事摂取基準
6. 食事バランスガイドの活用方法
7. 献立作成(食事とおやつのとり方) 中間テスト(第1~6回までの内容)
8. 食物アレルギー-1 現状と対策
9. 食物アレルギー-2 保育者の対応
10. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養
11. こどもの発育・発達と食生活
12. こどもクッキングの進め方(1) 和食
13. こどもクッキングの進め方(2) 手づくりおやつ
14. 食育基本法と保育所指針
15. まとめ
16. 期末試験

準備学習

授業で学んだ内容について、使用したプリントと教科書の該当箇所をよく読んで復習する。授業中に指示された課題について、各自で取り組み、次の授業に臨む。教科書の次回授業内容を読んでおく。

評価方法

レポートの提出20%、中間試験30%、期末試験50% によって総合的に評価する。

教科書

菅原園 他 著 『発育期のこどもの食生活と栄養』 学建書院 (2015.2発行)

参考文献

その都度、授業で紹介する。

こどもと生活

概要

事例を元に様々な視点から考察し、子どもの生活はすべて遊びであり、教育そのものであることを理解する。
事例検討やグループワークを通して保育者として多様な価値観に対応する柔軟性を養う。

担当教員	奥田美由紀 長谷川美香
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

現代社会においてこどもを取り巻く生活環境が多様化していることを理解し、保育者として必要な配慮、援助について考えることができるようになる。

各回の内容

1. 子どもの生活の場
2. こどもの権利から見た生活環境
3. 子ども主体の生活
4. 子ども主体の生活
5. 子ども主体の生活
6. 放任保育と任せる保育
7. 放任保育と任せる保育
8. 子どもと食生活
9. 子どもと食生活
10. 生活の中の保健・安全・衛生
11. 障がいのある子どもとの生活
12. 総合的な活動
13. 小学校との連携
14. こどもの生活と自立
15. まとめ

準備学習

子どもの家庭生活・園生活全般に興味関心を持つ。

評価方法

提出物 50%
最終レポート50%

教科書

(仮)実践事例から学ぶ子どもの生活 萌文書林

参考文献

その都度紹介する

こどもと算数

概要

算数や数学を苦手、きらいという人は少なくありません。また、公式を覚えて、問題に当てはめるとしか考えていない人も多いのです。それは、イメージや感覚を用いることを経験し、その楽しさを知らないためでもあります。この授業では、折り紙を用いたり、立体を作ったりしながら、身体感覚を生かした算数・数学を学び、保育に生かせることを考えていきたいと思います。

担当教員	山口 榮一
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

- ・イメージを生かした算数を学ぶ。
- ・公式を、感覚を用いて導く方法を知る。
- ・感覚と数学の関係を理解する。

各回の内容

1. 折り紙算数 算数・数学の理解に重要な感覚とイメージ
2. 切り紙算数 - 算数・数学の理解に重要な感覚とイメージ
3. 作りながら学び、学びながら遊ぶ - 立体をつくる
4. 作りながら学び、学びながら遊ぶ - 立体を測る
5. 数のパズル - 数量の感覚を鍛える
6. 図形のパズル - 図形の感覚を鍛える
7. 幼児教育におけるモンテッソーリメソッドと算数
8. 授業のまとめ
9. 試験

準備学習

課題をやってくる。
はさみと折り紙を用意する。

評価方法

授業の振り返り (40%)
テスト: 授業の感想を含む (60%)

教科書

山口榮一「おりがみで学ぶ図形パズル」、「切りがみで学ぶ図形パズル」ディスカヴァー・トゥエンティワン (各1000円+税)

参考文献

なし

保育表現技術 (音楽表現)

概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法などの技法を身につける。
できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。
弾き歌いができるようにする。
楽譜を読むために必要な基本的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

1年生で学んだ音楽の技術をさらに向上させる。
子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 楽典・ソルフェージュ
2. 4月の歌
3. 5月の歌
4. 6月の歌
5. 7月の歌
6. 8月の歌
7. 9月の歌
8. 個人発表

準備学習

それぞれ出された課題を完全に弾き歌いできるように練習する。

評価方法

実技試験90%、筆記試験10%

教科書

繁下和雄 著 『幼児のうた130選』 全国社会福祉協議会
森本琢朗・池田恭子 共著 『ジュニアクラスの楽典問題集』 ドレミ楽譜出版
鈴木恵津子・富田英也 監修 『ポケットいっぱいのおうた』 教育芸術社

参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する

保育表現技術 (音楽表現)

概要

保育現場において必要な楽曲や伴奏法などの技法を身につける。
できるだけ多くの楽曲に触れ、自分の得意とするレパートリーを増やす。
弾き歌いができるようにする。
楽譜を読むために必要な基本的知識、歌唱、演奏するために基本的な技能を身につける。

担当教員	高田真紀子・菅野弘子・村山美由紀
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

1年生で学んだ音楽の技術をさらに向上させる。
子どもに音楽の楽しさや表現方法を伝えるために自らが音楽の技術の向上を図り、実践につなげる。

各回の内容

1. 9月の歌
2. 10月の歌
3. 11月の歌
4. 12月の歌
5. 1月の歌
6. 2月の歌
7. 3月の歌
8. 個人発表

準備学習

それぞれ課題に出された曲を完全に弾き歌いできるように練習する。

評価方法

実技試験100%

教科書

繁下和雄 著 『幼児のうた130選』 全国社会福祉協議会
鈴木恵津子・富田英也 監修 『ポケットいっぱいのうた』 教育芸術社

参考文献

各自のレベルに応じて授業時に指示する

保育表現技術 (造形表現)

概要

保育の現場に必要な造形表現を保育者自身が喜びをもってできるよう、平面・立体表現ともに、モダンテクニックや染色など、幅広く素材や技法を追求した作品制作をする。さらに「仮面づくり」などテーマ性に重きを置く作品制作（教材として）を行う。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

子供に図画工作を楽しむことを教えるために、保育者自身が造形活動を通して、その楽しさ・面白さを味わい、豊かな感性や創造力を身に付けることができる。そのために必要な材料や道具等に関する具体的、専門的知識や技能を身に付けることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 色を楽しむ（クレヨンステンシル）
3. 水彩色鉛筆の表現
4. 水彩色鉛筆の表現
5. 水彩色鉛筆の表現
6. 水彩色鉛筆の表現
7. 水彩色鉛筆の表現
8. 水彩色鉛筆の表現
9. 思いがけない造形から（シャボン玉アート）
10. 思いがけない造形から（シャボン玉アート）
11. 思いがけない造形から（シャボン玉アート）
12. 思いがけない造形から（シャボン玉アート）
13. 光が生きる造形（フロタージュ・コラージュ）
14. 光が生きる造形（フロタージュ・コラージュ）
15. 光が生きる造形（フロタージュ・コラージュ）

準備学習

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする。

評価方法

課題制作の構想10%
 課題作品評価80%
 制作の意欲・態度10%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育表現技術（言葉）

概要

保育表現技術（言葉）同様で、特に「季節」、「お話」から子供の感性を豊かに育む作品制作（教材として）をする。

担当教員	穴戸美喜子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース2年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

子どもが経験から育んだ言葉やそのイメージをさら豊かに育てるための教材を、造形活動を通して得た自己の感性や知識・技能を生かし、作品として制作することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 四季を味わう造形活動
3. 四季を味わう造形活動
4. 四季を味わう造形活動
5. 和の造形（染色 板締めしぼり）折り
6. 和の造形（染色 板締めしぼり）染め
7. 和の造形（染色 板締めしぼり）染め
8. 和の造形（染め紙を使って）
9. 和の造形（染め紙を使って）
10. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり（1）（絵本、紙芝居）
11. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり（2）
12. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり（3）
13. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり（4）
14. 感性をゆさぶる「お話教材」づくり（5）
15. まとめ

準備学習

事前に題材のアイディアスケッチや資料収集をする。

評価方法

課題制作の構想10%
 課題作品評価80%
 制作の意欲・態度10%

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

保育相談実践演習

概要

地域における子育て支援広場の意義や役割、実際に学ぶ。
保育参加観察を通して、保育者の保護者支援について学び考える。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×7.5回
単位数	1

目標

短大子育て支援広場「親と子の広場」に参加し、保護者支援の実践を学ぶ。

各回の内容

1. 地域における保育相談支援とは
2. 保護者理解と保育相談支援の実践
3. 保育参加観察
4. 保育参加観察
5. 保育参加観察
6. 保育参加観察
7. 省察 実践の中の気づき
8. 省察 まとめ

準備学習

「親と子の広場」に参加することで、保護者支援に関心を持つ

評価方法

参加観察の態度・記録50%
発表・レポート50%

教科書

なし

参考文献

なし

保育内容演習(総合)

概要

学んだ保育内容について、総合的な芸術表現としたテーマ、内容を決め、発表を行う。

担当教員	堺秋彦・長谷川美香
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

学んだ保育内容について振り返り、総合的な芸術表現としたテーマ、内容を主体的に決定し、内容に伴う知識・技術・意欲を習得する。

各回の内容

1. これまでの学修を振り返る
2. 身体表現の総合
3. 音楽表現の総合
4. 造形表現の総合
5. 言語表現の総合
6. 健康についての総合
7. 人間関係についての総合
8. 環境についての総合
9. 言葉についての総合
10. 表現についての総合
11. 総合表現としての内容 1
12. 総合表現としての内容 2
13. 総合表現としての内容 3
14. 総合芸術表現発表会
15. まとめ

準備学習

今までの学修を振り返り自分の課題について整理しておく。

評価方法

学習成果としての、各内容の評価60%・総合芸術表現発表会の評価と自己評価40%

教科書

特になし

参考文献

これまでの「保育内容」の授業で使用した教科書や参考書、資料等

特別研究 子育て支援

概要

子どもを取り巻く環境はどうなっているのか、育児不安を持つ母親がなぜ多いのかなど、現代の子育て事情を把握しながら、それぞれが特に興味、関心をもったテーマについて、調査、研究し、論文にまとめる。

担当教員	長谷川美香
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	子ども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

選んだテーマについて、広い視点で考え、判断する力を養う。テーマの設定、文献や資料の探し方、報告や発表の仕方を学ぶ。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 現代の子育て支援の状況
3. 現代の子育て支援の状況
4. 研究テーマの検討
5. 研究テーマの検討
6. 研究テーマの決定
7. 論文作成の知識（文献の探し方、引用の仕方、研究倫理など）
8. 論文作成の知識（文献の探し方、引用の仕方、研究倫理など）
9. 調査
10. 調査
11. 調査
12. 調査
13. 中間報告
14. 論文作成
15. 論文作成
16. 論文作成
17. 論文作成
18. 論文作成
19. 論文作成
20. 論文作成
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 最終報告
24. 最終報告
25. 校正・印刷・製本
26. 校正・印刷・製本
27. 校正・印刷・製本
28. 発表会準備
29. 発表会準備
30. 特別研究発表会

特別研究 子育て支援

準備学習

文献を読むなど、選んだ研究テーマに関する知識を深める。
論文を書くための資料収集や、調査を行う。

評価方法

研究に取り組む姿勢50%
論文内容50%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する。

特別研究 こどもとことば

概要

こどもの言葉の発達とそれを支える保育や家庭環境などについて問題意識を持ち、研究テーマを設定して研究を進め、論文としてまとめる。

担当教員	狩野奈緒子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

実習や参加観察の場で問題意識をもち、自分のテーマについて論理的に考察することができるようになる。

各回の内容

1. ガイダンス
2. 研究テーマの検討
3. 参加観察記録による話し合い
4. 参加観察記録による話し合い
5. テーマの課題についての話し合いと設定
6. 実習で出会ったエピソードの記録
7. 実習で出会ったエピソードについてのカンファレンス
8. 実習で出会ったエピソードのカンファレンス
9. 研究方法の検討
10. 研究方法の検討
11. 研究方法の検討
12. フィールドワーク
13. フィールドワーク
14. フィールドワーク
15. 中間まとめ
16. 実習であったエピソードのカンファレンス
17. 実習であったエピソードのカンファレンス
18. 論文作成
19. 論文作成
20. 論文作成
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 論文修正
25. 論文修正
26. 発表の仕方
27. 発表準備
28. 発表準備
29. 発表会
30. 発表会

特別研究 こどもとことば

準備学習

子どもの姿や実習であった事例など関心を持って自分の課題を見つける。

評価方法

研究に取り組む意欲・態度30%

論文内容70%

教科書

なし

参考文献

その都度紹介する

特別研究 こどもと福祉

概要

こども家庭福祉に関する研究テーマを設定し、研究をすすめ、論文としてまとめる。

担当教員	坂本真一
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

論文作成にあたっての基本的姿勢が身につく。
こども家庭福祉に関する専門的な知識を習得することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献・資料検索および収集の方法
3. 研究テーマの検討
4. 研究テーマの検討
5. 研究テーマの検討
6. 研究テーマ決定・報告
7. 研究方法の検討
8. 論文構成の検討
9. 文献調査等
10. 文献調査等
11. 文献調査等
12. 文献調査等
13. 中間報告会
14. 中間報告会
15. 研究テーマおよび研究方法の再検討・修正
16. 論文構成の再検討・修正
17. 文献調査等
18. 文献調査等
19. 文献調査等
20. 文献調査等
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 論文作成
25. 論文作成
26. 論文作成
27. 報告会
28. 印刷・製本
29. 特別研究発表会
30. 特別研究発表会

特別研究 こどもと福祉

準備学習

研究テーマに関する資料を収集する。
収集した資料を読み、まとめる。

評価方法

中間報告40%
研究成果(論文)60%

教科書

使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献

研究テーマに応じて、随時紹介する。

特別研究 こどもと健康

概要

「こどもの健康」とは何かを理解し、乳幼児期の発達段階を捉えてこどもが健康で日々の生活を送れるよう、活動のあり方や方法を理論を踏まえて研究する。そのうえで、こどもにとって何が大切で、どのような保育者が求められるのかを熟考し、研究をまとめていく。主体性かつ独自性のある研究が求められる。

担当教員	堺 秋彦
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

現代社会におけるこどもたちの現状と課題を見つめ、幼稚園教育要領並びに保育所保育指針が謳っている領域「健康」を踏まえて、こどもの健康について考え、研究テーマを設定し、研究論文にまとめて発表することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 身体の構造と論理 1、実践研究 1
3. 身体の構造と論理 2、実践研究 2
4. こどもの表情とこどもの心、実践研究 3
5. こどもにとって望ましい生活とは、実践研究 4
6. こどもの視点に立った環境構成、実践研究 5
7. 実践研究 6
8. 実践研究 7
9. 実践研究 8
10. 実践研究 9
11. 実践研究 10
12. 実践研究 11
13. 実践研究 12
14. 実践研究 13
15. 実践研究振り返り、まとめ
16. 研究テーマと研究方法の検討
17. 文献調査 1
18. 文献調査 2
19. 文献調査 3・素材整理・論文作成 1
20. 文献調査 4・素材整理・論文作成 2
21. 文献調査 5・素材整理・論文作成 3
22. 文献調査 6・素材整理・論文作成 4
23. 素材整理・論文作成 5
24. 素材整理・論文作成 6
25. 素材整理・論文作成 7
26. 最終報告会 1
27. 最終報告会 2
28. 校正・印刷製本 1
29. 校正・印刷製本 2
30. 特別研究発表会

特別研究 こどもと健康

準備学習

自分がこどもの頃、どのようなこどもであったかなどを思い返しながら、常にこどもの視点に立った考えをもてるようにし、身近にいるこどもの様子を観察する。

評価方法

研究に取り組む姿勢 50% (研究方法の報告書等の内容が適切である)
研究内容の成果 50%

教科書

文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2010年
厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2011年

参考文献

その都度、授業で紹介する。

特別研究 こどもと保健

概要

「こどもの健康」とは何かを理解し、乳幼児期の発達段階を捉えてこどもが健康で日々の生活を送れるよう、活動のあり方や方法を理論を踏まえて研究する。そのうえで、こどもにとって何が大切で、どのような保育者が求められるのかを熟考し、研究をまとめていく。自主性かつ独自性のある研究が求められる。

担当教員	山下敦子
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

現代社会におけるこどもたちの現状と課題を見つめ、幼稚園教育要領並びに保育所保育指針が謳っている領域「健康」を踏まえて、こどもの健康について考え、研究テーマを設定し、研究論文にまとめて発表することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 文献・資料検索および収集の方法
3. 研究テーマの検討
4. 研究テーマの検討（各自発表）
5. 研究テーマの検討（各自発表）
6. 研究テーマの決定・報告
7. 研究方法の検討
8. 論文構成の検討
9. 文献調査等
10. 文献調査等
11. 文献調査等
12. 文献調査等
13. 中間発表報告会
14. 中間発表報告会
15. 研究テーマ及び研究方法の再検討、修正
16. 研究テーマ及び論文構成の再検討・修正
17. 文献調査等
18. 文献調査等
19. 文献調査等
20. 文献調査等
21. 論文作成
22. 論文作成
23. 論文作成
24. 論文作成
25. 論文作成
26. 論文作成
27. 報告会
28. 印刷・製本
29. 特別研究発表会
30. 特別研究発表会

特別研究 こどもと保健

準備学習

自分がこどもの頃、どのようなこどもであったかなどを思い返しながら、常にこどもの視点に立った考えをもてるようにし、身近にいるこどもの様子を観察する。

評価方法

研究に取り組む姿勢 50% (研究方法の報告書の内容が適切である)
研究論文の内容 50%

教科書

なし
各自研究に必要なものを用いる

参考文献

その都度、紹介する

特別研究 こどもの育ちと保育者

概要

子どもが様々な体験を通して心が揺さぶられ、育っていく姿を見つめ、共に在る保育者の存在や思い、具体的ななかかわりについて、体験的あるいは文献などを用いて研究していく。

担当教員	奥田美由紀
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース2年
時間数	90分×30回
単位数	4

目標

生き生きとした子どもを育てるために、保育者はどうあるべきか、各自の研究テーマを元に具体的に考察し理解を深め、これからの自分の保育実践に意欲を高める。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの検討
3. 研究テーマの検討
4. 研究テーマの検討
5. 研究方法の検討
6. 研究方法の検討
7. 文献・調査・実践等
8. 文献・調査・実践等
9. 文献・調査・実践等
10. 文献・調査・実践等
11. 中間報告会（1回目）
12. 文献・調査・実践等
13. 文献・調査・実践等
14. 文献・調査・実践等
15. 文献・調査・実践等
16. 中間報告会（2回目）
17. 文献・調査・実践等
18. 文献・調査・実践等
19. 文献・調査・実践等
20. 中間報告会（3回目）
21. 研究のまとめ
22. 研究のまとめ
23. 研究のまとめ
24. 研究のまとめ
25. 中間報告会（4回目）
26. 発表準備
27. 発表準備
28. 中間報告会（5回目）
29. 発表準備
30. 特別研究発表会

特別研究 こどもの育ちと保育者

準備学習

実習で経験した事例や身近な話題に興味関心を持ち、研究したいテーマを見つける。
研究テーマに関する文献を読む。

評価方法

研究に取り組む姿勢 50%
研究内容 50%

教科書

なし
必要に応じて、資料を配布する。

参考文献

その都度、授業で紹介する。